

Bunkyo Brut アンケート集計結果

▼来場者数

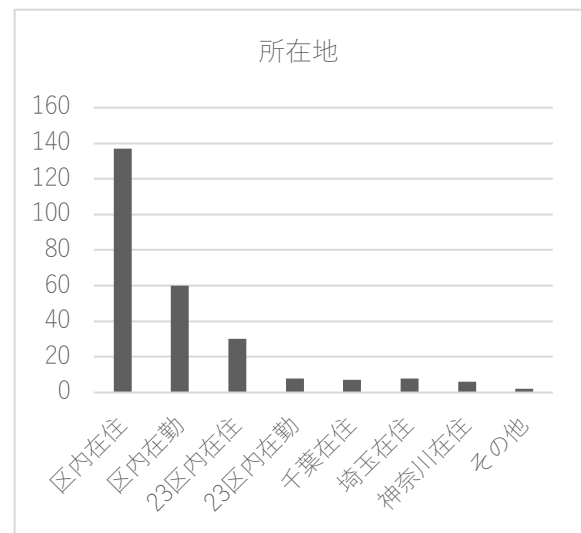
	計	11/2(水)	11/3(祝)	11/4(金)	11/5(土)
受付数	462	115	118	124	105
辞退者数	46		11	23	12

▼アンケート回収率

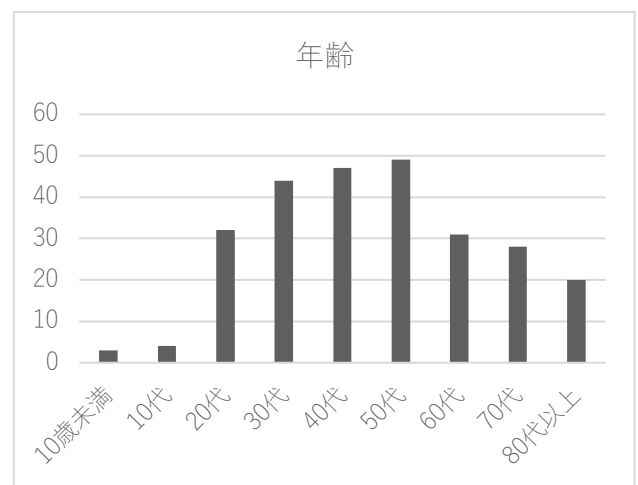
	計	11/2(水)	11/3(祝)	11/4(金)	11/5(土)
回答数 人	258	55	53	89	61
回収率 %	55.8	48	45	72	58

▼来場者アンケート集計

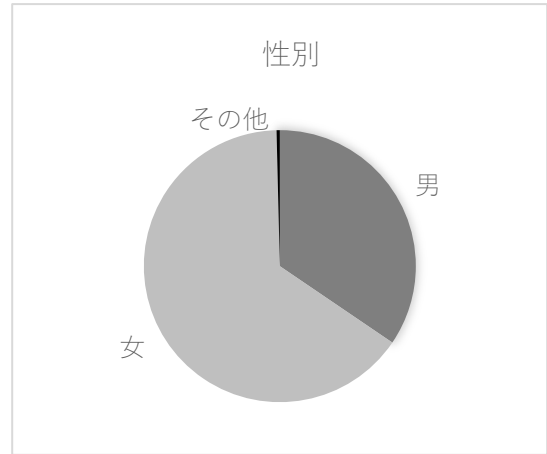
所在地	計	11/2	11/3	11/4	11/5
区内在住	137	24	32	44	37
区内在勤	60	24	8	18	10
23区在住	30	4	7	13	6
23区在勤	8	1	1	4	2
千葉在住	6	0	3	3	0
埼玉在住	8	1	0	3	4
神奈川在住	6	1	1	3	1
その他	2	0	0	1	1
計	258	55	53	89	61



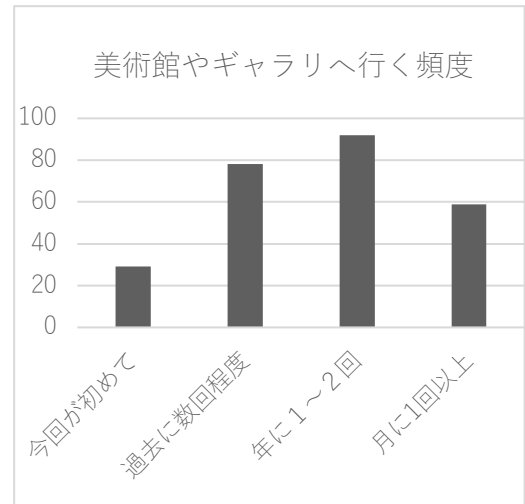
世代	計	11/2	11/3	11/4	11/5
10歳未満	3	0	1	0	2
10代	4	0	1	2	1
20代	32	9	4	13	6
30代	44	9	6	15	14
40代	47	12	10	9	16
50代	49	11	15	12	11
60代	31	2	8	18	3
70代	28	8	4	10	6
80代以上	20	4	4	10	2
計	258	55	53	89	61



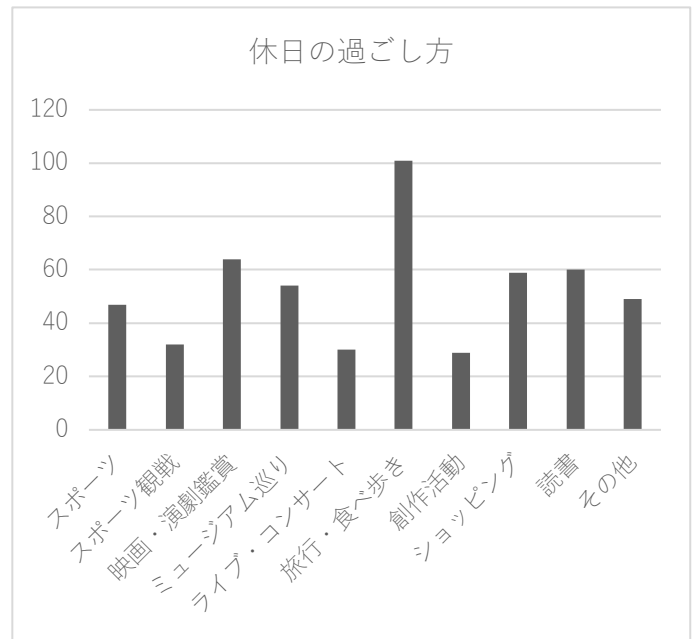
性別	計	11/2	11/3	11/4	11/5
男	89	21	20	29	19
女	168	33	33	60	42
その他	1	1	0	0	0
計	258	55	53	89	61



美術館等へ行く頻度	計	11/2	11/3	11/4	11/5
今回が初めて	29	9	5	8	7
過去に数回程度	78	16	18	28	16
年に1～2回	92	24	17	32	19
月に1回以上	59	6	13	21	19
計	258	55	53	89	61

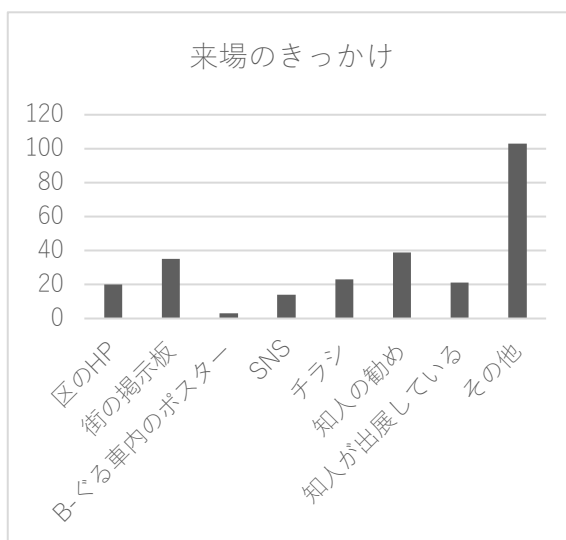


休日の過ごし方	計	11/2	11/3	11/4	11/5
スポーツ	47	9	12	14	12
スポーツ観戦	32	5	8	9	10
映画・演劇鑑賞	64	21	12	22	9
ミュージアム巡り	54	9	12	17	16
ライブ・コンサート	30	7	9	10	4
旅行・食べ歩き	101	20	22	41	18
創作活動	29	2	12	6	9
ショッピング	59	14	10	23	12
読書	60	8	16	22	14
その他	49	11	7	17	14
計	525	106	120	181	118



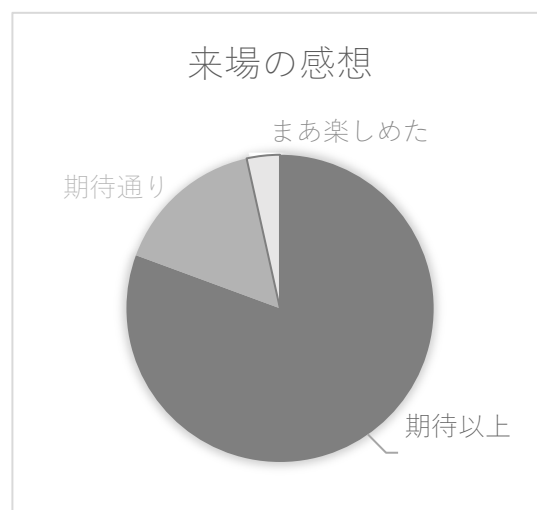
*その他の回答：公園、散策、史跡巡り、編み物、ボーイスカウト、ゲーム、プログラミング、YouTube等

来場のきっかけ	計	11/2	11/3	11/4	11/5
区のHP	20	10	1	4	5
街の掲示板	35	9	6	10	10
B-ぐる車内ポスター	3	2	0	1	0
SNS	14	1	4	4	5
チラシ	23	2	4	9	8
知人の勧め	39	7	12	15	5
知人が出展している	21	6	9	3	3
その他	103	18	17	43	25
計	258	55	53	89	61



*その他の回答：通りがかり、区役所の用事について

感想	計	11/2	11/3	11/4	11/5
期待以上	208	41	43	68	56
期待通り	41	12	6	20	3
まあ楽しめた	9	2	4	1	2
楽しめなかった	0	0	0	0	0
計	258	55	53	89	61



▼主な自由回答

- ・ すごく楽しめた。作品鑑賞の楽しみ方を教わった。再開催を強く願う。(複数回答)
- ・ 他の方と一緒に作品を見ることで楽しさが倍増した。(複数回答)
- ・ 溢れる才能、無限に思える集中力。
- ・ 単なる展示ではなく愛とセンスのある展示だった。区内の他の所でも開催してほしい。(複数回答)
- ・ パワーあふれる作品に感動した。毎月でも毎日でも開催してほしい。(複数回答)
- ・ 美術館にはよく行くが、今年で一番面白い作品展だった。
- ・ 自由に思うままを表現していいのだと教えられ、創作意欲が湧いた。(複数回答)
- ・ 初めて自分で絵を描いてみたいと思った。そのタイミングでWSコーナーがあるのは有り難かった。
- ・ カラフルで、表現のバリエーションも豊富で、楽しい作品展示だった。(複数回答)
- ・ きちんと芸術作品として評価していることが伝わる良い展示だった。マーケットターがつくといい。
- ・ お気に入りの作品のグッズを作ってほしい。(複数回答)

Bunkyo Brut 協力施設の振り返り集計結果

▼開催した感想

とても良かった	6
良かった	2
どちらでもない	0
開催の必要を感じなかった	0

▼企画を知った時の印象からのギャップ

期待以上に良かった	6
期待した通りだった	2
期待した内容ではなかった	0
特に印象に残っていない	0
訪れる機会がなくわからない	0

- ・実際に他の事業所の作品を見る良い機会になった。
- ・利用者本人や保護者の喜びの声を直接聞くことが出来た
- ・展示方法・構成・キャプションなど、いわゆる障害者の方の作品展的なものでなく、一般的な美術展示のようにとっても丁寧で質の高い展示をしていただいたこと。
- ・主催された文京アートプロジェクトのスタッフの方ひとりひとりが、アート自体またアールブリュットを好きな事がことが伝わってきた。
- ・利用者、保護者の喜ぶ姿を見る事ができ、職員の作品作りのモチベーションにつながった。
- ・展示だけではなく作品の鑑賞のしかたを教えていただける企画がいろいろあったことが良かった。
- ・多くの人の目にふれる区役所に展示され、利用者の作品が世の中で表現出来ている実感がもてた。

▼開催後1ヶ月経った時点の利用者（＝作者）の様子

制作活動に変化が見られた	4
日常生活に変化が見られた	0
変化が見られたと保護者から聞いている	2
特に変化は感じられない	2

- ・自宅での色塗りや創作活動への意欲が上がったとの報告を受けている。
- ・次の作品展示に向けて制作を再スタートしている。
- ・次の展示はいつ??と、楽しみと心地よいプレッシャーになっている様子。
- ・名前を伏せて作品展示した利用者のご家族から「こんなに素敵に展示してくれるのなら名前を出せば良かった」と言われた。

▼開催後1ヶ月経った時点の施設の様子（自由記述）

- ・ポスターに採用されたことで、活動意欲がやや上がったように感じた。
- ・多くの職員や関係者が訪れた事で、利用者の創作活動に対する意識が変わった印象がある。
- ・作品への可能性を感じている様子で、新たな取り組みに挑戦する計画を立て始めている。
- ・日頃の作品を展示できる場があったことで職員のモチベーションも上がった。
- ・このことに関する話題が増えて、ご本人だけでなく職員にも創作意欲がわいているように感じる。
- ・職員同士で展示について話す機会が増えた。

▼Bunkyo Brut 開催にあたっての協力の負担度合い

- ・主催者との連絡業務（作品データや作者情報提供等）

負担はなかった	4
少し負担だった	2
負担に感じた	2
とても負担に感じた	0

- ・保護者への確認業務

負担はなかった	4
少し負担だった	2
負担に感じた	2
とても負担に感じた	0

- ・作品の搬入・搬出

負担はなかった	4
少し負担だった	1
負担に感じた	2
とても負担に感じた	1

- ・備品準備等、施設内での調整

負担はなかった	3
少し負担だった	2
負担に感じた	2
とても負担に感じた	1

- ・ポスター掲示等の広報協力

負担はなかった	7
少し負担だった	1
負担に感じた	0
とても負担に感じた	0

▼来年度も Bunkyo Brut を開催するとしたら

積極的に協力したい	4
今年度以上に協力したい気持ちがある	2
今年度と同様程度であれば協力しても良い	2
協力を控えたい	0

▼学生ボランティアからの意見（自由記述）

- ・個性のある作品ばかりで色々と五感に刺激を受けられた。絵を読み解くようなツアーは初めてだったが、より深く理解に繋がる感じで非常に楽しい時間だった。自分の塗り絵が缶バッチになったのもいい思い出になった。撤収作業は展示方法の大変さを知れて勉強になった。
- ・1つの絵について他の人の見方を知った上で鑑賞できたのが面白かった。ボランティアとして関わることで、どんな方々が今回の展覧会を見に来るのか知れたことも勉強になった。機会があれば制作の過程から関わってみたいと思った。

*後日、学生2名とも福祉系法人に就職内定したとの報告あり。

コミュニケーターの振り返り（自由記述）

▼参加者との会話や参加者の発言で印象に残っているもの

- ・一人で見ただけでは何かわからない作品もあったが、話すとなるほど面白いと思えた。（複数回答）
- ・絵を誰か（知らない人）と一緒に見て回るのは初めてだったがとても楽しかった。（複数回答）
- ・普段こういう作品を見る機会がなかったから感動した。模写WSのような体験もとても楽しかった。アートも全然詳しくないけれど良い時間を過ごせた。（複数回答）
- ・職員の方が丁寧に作品として額装したり残しておくからこうやって展示できてるのね。頭がさがる。
- ・この作品たちの魅力は既成概念にとらわれない自由さ。
- ・子どもが学校で「正解」を教えられると、どの子も似たような絵を描くようになってしまうように、私たちはなかなか常識の外に出られない。
- ・好きなものを素直に表現するこうした作品を見ると、ほっと息がつける感じがする。
- ・施設での作品制作の時間にボランティアをしているので、いつかこうして展覧会ができるのかな？と思っているが、職員さんから「時間内に作品を作り終わるように」と言われ、もやもやする。
- ・自分ならほかの人から見てもわかるような意味ある形にしようと思ってしまう。これを作った人はそんなことは気にせず好きな形を作っているのだろう。
- ・子どもの絵の展示かと思いついたけど、思いがけず障害のある人の作品を見られてよかった。
- ・多くの高齢の方々が「コロナ」で家にこもっていた話をしてくれた。遠くの美術館に行くことはすっかり諦めてしまったけれど、今回のように区内で様々な作品を見ることができたのが嬉しいと。
- ・子供の時以来何十年ぶりに塗り絵をしたけどやり始めたら熱中して楽しかった。
- ・知り合いの作品があると聞いてきた。（作品を探してやっと見つけて）ずいぶん作風が変わったけれど昔の面影があるかも。久しぶりに見られて良かった。
- ・（おじさん、電車エリアの作品を眺めながら）バスキアみたいだ。
- ・（中道さんの作品を見て）すごく好きなキャラクター。Tシャツにして着たい。
- ・来年1月に88歳になるという視覚障害の男性が白杖を持って来場。趣旨を伝えると、自分も見えないからと親近感を持たれたようで、改めて作品をじっくりとご覧になるのに伴走した。ご自身について少しずつ視力を失っていること、見えていた頃はお茶会の会長をやっていたこと、今は「町名」について講演を行っていること、ご自身でも水墨画に取り組んでおられることなどを話した。
- ・耳の聞こえない重複障害の男性が施設の人と団体で来たので、少しだけ手話でお話した。私が簡単な手話を使うと目が大きくなった。普段は持っている手話の本のようなもので指差しのコミュニケーションをとっているだけで、周囲とのコミュニケーションがほとんどない様子で少し切なくもなったが、お話しできて良かった。車が好き、自分の家には2台車がある、と教えてくれた。
- ・「作品とそれを見る人が会話をして、そのあと作品がずっと残っていくといい」と日本在住22年というフランス人男性から（日本語で）感想としていただいた。「言葉で表現することが不得手な作者が作品を通して言っていることを受けとめ、作品とともに思いを伝えていく」ことかと理解した。
- ・（親の介護などで）心が疲れる日が続いていた。元々美術鑑賞は好きだが、コンディションが万全でない時に伝統美術は重すぎて観る気が起きない。邪心のない作品群に心身が癒やされ「ああ、こういうものを求めていたんだ！」と自覚した。他の方と気持ちを共有しながら観られたことも良かった。

- ・リアン文京の近くで、時々、ガラス越しに作品を展示してあり、通りがかりに見て気になっていた。今回の展覧会は、たくさんの作品が見られてうれしい。
- ・「区設掲示板にポスターを貼る係をしている。先日、この展覧会のポスターを何枚か貼って気になっていたので立ち寄った。
- ・作品を見終わった後は、「自分で自由に描いていい」という気分になる方が多く、缶バッチワークショップで模写に挑戦される方が多くいた。

▼作者や作者家族との会話や発言で印象に残っているもの

- ・〇〇ちゃんにはこんな風に見えるんだろうね。それがわかって嬉しい。
- ・我が子の作品が額に入って飾られている、人が見てくれていることが嬉しい。（複数回答）
- ・（本人はいつも）一生懸命なんですよ。嬉しいです。こんな風に飾ってもらって本当に嬉しい。
- ・（作者家族に）娘の作品が真ん中に飾ってあるから、是非見てやってくれ、ってとても喜んで連絡してきたので見に来た。私も嬉しい。
- ・（施設長さんのコメント）彼はとてもおだかやかなのですが、この作品を見て職員一同、彼の中にある激しい感情を初めてみて驚きました。こうやって展示してくれて嬉しかったです。
- ・「息子は素材の切手をはがす作業しかしてないんだけど、こうして飾られているのを本人に見せようと思って」と写真を撮られていた。
- ・ご両親が「（ご子息は）こんなに褒められることないから、どうしていいかわからなくなってる。」と。彼に限らず作家さんたちは皆褒めて貰ってるかなあと気になった。褒めてもらって然るべき才能を持っている人達だから、もっともっと褒められる「場」があるといいなあとと思った

▼コミュニケーターとして活動した感想

- ・アール・ブリュットに関心があったり、障害のある方に関わっていたりする方は熱心に見る。まったく知らずに来た人でもアートに関心が高い人や自分で絵を描いたりする人が多い。総じてコミュニケーターと話すことで満足度が上がっていたのではないかと思った。
- ・会場に障害のある方や子どもがいたり、ワークショップが行われていることもあってか、気負わず思い思いに過ごせる場所になっていたと思う。
- ・ちょっとしたきっかけや言葉掛けで、これまで見ていた作品が違ったものに見える瞬間とか、作品のほんの一部分しか見えていなかったと気づいた瞬間とか。今回の活動でも来場者の方のそういう「瞬間」に立ち会うことができた。
- ・作品の自由な力に助けられた。作品をどんな風に見ても良いし、それぞれ観者の視点から物語が展開されていた。
- ・文京区の施設の皆さんの作品を地域のみなさんに知ってもらう繋ぎ役としてアート・コミュニケーターがそこにいる意味があったと思う。作家さんや施設に関係なく障害があるご家族をお持ちの方も多く来場された。お話を伺いながら、様々な思いへと考えを巡らせる機会になった。
- ・ワークショップを体験した皆さんが総じてとても満足そうな笑顔だったのが印象的だった。
- ・年配の何人もの方が近所に住んでいる（いた）作者（当事者）を小さい頃から見守っていて、散歩がてら展覧会を見にきたというご近所コミュニティの存在を目の当たりにした。シビックセンター付

近を日々散策されているという方も多数いらした。展覧会は集いの場（ご高齢者の話の場）でもあると感じた。

- ・「障がい者」を前面に出さない展覧会であるものの、一方で障がい者が作った作品であることを説明したほうが興味を持ってもらいやすい場面も多かった。そのアプローチのバランスが難しい。ただ、一旦会場に入ってもらくと、作品の力や場づくりの効果で見終わった後は満足される方が多かった。

▼展覧会全体の感想を（一鑑賞者として）

- ・来場者の言葉にもあったが、レイアウトのバリエーションや工夫が本格的だった（一般市民ギャラリーによくある一直線の展示のようにではない）こともあり、どの作品も足を止めてみたいと思えた。
- ・さまざまな表現の作品、量産する作家の作品をショーケースに積みあげた展示や壁一面のドロイングなど変化のある展示が楽しかった。作家の個性が伝わって最高！だった。単に飾ってあるだけでは「公民館」みたいになりそうな会場だが、一気に厚みが出たと思う。（複数回答）
- ・コミュニケーターがいることで、静かな中にも柔らかな活気があり、会場に入りやすいと思った。
- ・アール・ブリュットの展覧会として作品のクオリティもかなり高かったと思う。文京区内という限られたエリアの中だけでも、ここまで多様な表現の蓄積があることに感銘を受け、それを続けて来られた施設や支えて来られた家族の方々、さらに今回の展示にこぎつけた小松さんのお骨折りに感服。（複数回答）
- ・キャプションによって作者のことを知ることができ、その人を見る支援者の視点も感じられた。
- ・文京区のことはいまだあまり知らないけれど、作品を通じて作った人たちの生活を想像することができた。
- ・ガラスの「BUNKYO BRUT」の文字もオシャレだし、作品の展示の仕方も素敵だし、細かいところまで丁寧だと感動した。地下鉄の路線図の展示方法も大好きだった。通常より5cm下げた展示のお話も沁みた作品に対して敬意をもって接し、大切に扱っている心が現れている展示だと思った。
- ・すごい作品たちに出合った！という印象が残った。
- ・ポスターを使ってストリートミュージアムを実現されたのも素敵だった。
- ・面白くて親しみやすい作品が多く、楽しんで鑑賞できた。グッズにして持ち帰りたい作品、自由に好きなように描くことの大切さを思い出させてくれる作品が多くあった。

▼活動前（=事前説明会まで）と活動後で気持ちに変化したこと

- ・アール・ブリュット作品でどこまで対話できるのか不安もあったが、実際には一見シンプルな作品でも他の人と見る面白さがあり、アート・コミュニケータの役割が大きいと感じることができた。
- ・搬入から参加して感じたのは、展覧会の作り方は基本的にどれも似てはいても、最終形を決めるのは関わる人次第だということ。小松さんのように「やりたい！」というエネルギーと実行力を持つ人がいるかどうかが大変な決め手なのだと感じた。
- ・活動前は、支援現場の職員さんも展示の準備大変なんじゃないか？とか勝手に思っていたが、会期中に他事業所の職員さん同士で「きれいに展示してくれてよかったですね」と話されているのを聞いて、施設内だけでやるのではなく、最終的には外部に任せられるので（いい意味で）楽なのかなと想像した。外部とはいっても、丁寧に築かれてきた信頼関係があるからこそと思うが、第三者が作品の価値を認めて社会に広めるのは本当に必要なことだと思った。

- ・施設の中ではあまりにも日常的で顧みられないものも、誰かが大切に扱っているのを見て初めて価値に気付くということもあるだろうと改めて思った。
- ・あそこまで関係者の方がいらっしゃるとは思わなかった。作家さんたちもそうだが、余暇活動として作品やアートコミュニケータとの触れ合いがあり、良い時間だなと思った。通りすがりの方も興味津々で見ているので、コミュニケータがいることで変わった印象もたくさんあったことと思う。
- ・子連れの来場者が多かったので、親子向けの鑑賞会などを企画しても良いかも。
- ・来場者の反応や期待度がどの程度あるのかは計りかねていたが、区報やポスターなどを見て幅広い年齢層の方達が足を運んでくださった。活動後は地域の皆さんがアートに触れる機会を継続して作ることができたらいいなと強く思うようになった。
- ・今回は「つながりのはじまり展」という事で、文京区の施設や作家さんを知る機会だった。素晴らしい作家さんが沢山いらっしゃったので、地域の皆さんや多くの方に広めたいと思った。作品を見るだけにとどまらず、アート・コミュニケータと対話をしたり、ワークショップも体験できる場になりとても良い展覧会だったと思う。作家さんが今後どんな作品を制作されるのか、この展覧会が今後どのように展開されていくのか、アート・コミュニケータの様々なシーンでの関わり方もさらにどう広がりを見せるのか楽しみ。
- ・実物の作品の力を改めて感じた。どんな人（たち）が、どんな環境で、どんなふうにしたんだろうという想像がどんどん膨らんでいき、元気になれる活動だった。会場のあちこちで人々が談笑している写真を見つけて思わず家族LINEに送ってしまった。こんな展示風景、そうそうないでしょ？と。
- ・障がい者アートが、ごく一部の人たちだけが興味を持っている特殊な作品かもしれないと思っている部分があったが、今回の活動を経て、アプローチの仕方を工夫すれば普通の一般の方にも興味を持ってもらえる可能性はあるという自信が生まれた。

▼次の開催(があるとすれば)に向けた改善点

- ・ポスターやチラシがとても素敵でよかった。掲示板、区報、バスの宣伝など、広報が成功したと感じたので、次回も大切にしたいポイントだと思った。
- ・アンケートは両面であれば、表の最後に「裏につづく」と書いてあるとよかった。
- ・鑑賞ルートが最後に中央ガラスの前になることが多く、出口への動線に工夫が必要だった。
- ・今回は参加されていない施設や個人の方の作品も見たいなと思った。
- ・授産品の販売もできると、事業所やご本人の利益にもなるし、お客さんに継続的に関心を持ってもらうことにもつながるのでは。
- ・アート・コミュニケータについてやプログラムを実施していることについての掲示物に再考の余地あり。主催の文京アート・プロジェクトの活動紹介があっても良かったと思った。
- ・創作風景（動画や写真）や現場で交わされた言葉のやりとり（制作ノート）など、プロセスや背景が垣間見える補助展示（記録）があると良い。（ないからこそ想像して楽しんだ側面もあるが）
- ・額装や保管といった作品としての取り扱いについて、施設や現場の意識がさらに向上していくと良いと思う。施設／現場としては、作品はある意味で日々の活動の副産物なのかもしれないが、福祉現場のように外部から見えにくい環境は、社会に対してオープンになることで、本人のQOLや福祉の環境

全体が向上することにもつながると思う。（その真逆が「やまゆり園」のような事件を引き起こすのであり）作品は、普段は作りにくい社会との接点を作る「窓」のようなものと理解してもらえたら、制作の記録や作品の取り扱いについての意識も変わっていくのではないかと期待している。

- ・連絡先を書く段になって出て行ってしまおう人がいるのは残念で、来場者・スタッフともども気まずい思いをすることになったと思うので、なんとか方策はないものかと思った。



▼ワークショップ受付カウンター



▼会場入口



▼準備中の様子



▼開催時の様子

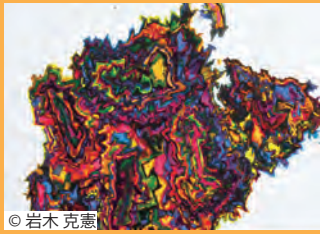




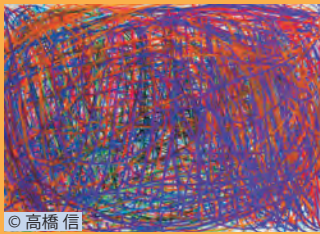
©はへと・ピア2



©はへと・ピア



©岩木克憲



©高橋 信



©よしけん

Bunkyo Brut

～つながりのはじまり展～

2022.11.2 wed-5 sat Gallery Civic

専門的な美術教育を受けていない人による芸術や、既存の美術潮流に影響されない表現を「アール・ブリュット」と呼びます。本展では、文京区で創られた無名だけれど個性あふれる作品群を集め、「Bunkyo Brut」(ブンキョウ・ブリュット)と名付けて、鑑賞の機会を提供します。会場では、アート・コミュニケーター(*)が対話やワークショップを通じて作品鑑賞をサポートします。これまで文化芸術に触れる機会の少なかった方でも、お気軽にお楽しみいただけます。

*アートを介してコミュニケーションを促進し、人々の多様な価値観をつなぐ人々。



©リアン文京



©名坂友和



©岡田康汰



©リアン文京



©若駒の里



©下山葵

主 催 ▶ 文京アートプロジェクト、文京区

助 成 ▶ 文京区社会福祉協議会Bチャレ(提案公募型協働事業)

問合せ ▶ 文京アートプロジェクト (fuminomiyako.kk@gmail.com) / 文京区アカデミー推進課 (TEL:03-5803-1120)



© リアン文京

Bunkyo Brut

ブンキョウ・ブリュット

～つながりのはじまり展～

2022.11.2 wed - 5 sat **Gallery Civic**

ギャラリーシビック

開催時間 ▶ 10:00～17:00 (2日=11:00～、5日=～15:00)

文京区春日1-16-21 文京シビックセンター1階

1 アート・コミュニケーターと
お話ししながら作品鑑賞を楽しもう!



iPadで
筆談もできます!

2 名画の模写に挑戦しよう!
描いた作品を缶バッジにして持ち帰れるよ!



受付時間
2日=12:00～15:30
3日・4日=11:00～15:30
5日=11:00～13:00

*無くなり次第、終了

参加費無料!

詳しくは区のHPで!



主催 ▶ 文京アートプロジェクト、文京区

助成 ▶ 文京区社会福祉協議会Bチャレ(提案公募型協働事業)

問合せ ▶ 文京アートプロジェクト (fuminomiyako.kk@gmail.com) / 文京区アカデミー推進課 (TEL:03-5803-1120)

Bunkyo Brut

つながりのはじまり展



©はもと・ピア

主催：文京アートプロジェクト、文京区
助成：文京区社会福祉協議会Bチャレ(東京都社会福祉審議会)

2022.11.2 wed - 5 sat

文京シビックセンター1階
Gallery Civic



Bunkyo Brut

つながりのはじまり展



©#vと・ピア2

主催：文京アートプロジェクト、文京区
助成：文京区 社会福祉協議会 日テレ（東京公明党支部）

2022.11.2 wed - 5 sat

文京シビックセンター1階
Gallery Civic



Bunkyo Brut

つながりのはじまり展



©リアン文京

主催：文京アートプロジェクト、文京区

助成：文京区社会福祉協議会Bチャレ(東京都福祉振興事業)

2022.11.2 wed - 5 sat

文京シビックセンター1階
Gallery Civic

Bunkyo Brut

つながりのはじまり展



©リアン文京

主催：文京アートプロジェクト、文京区

助成：文京区社会福祉協議会日チャレ(国庫公費助成金事業)

2022.11.2 wed - 5 sat

文京シビックセンター1階
Gallery Civic



Bunkyo Brut

つながりのはじまり展



©よしけん

主催：文京アートプロジェクト、文京区

協賛：文京区社会福祉協議会日チャレ(国庫公認協賛事業)

2022.11.2 wed - 5 sat

文京シビックセンター1階
Gallery Civic



Bunkyo Brut

つながりのはじまり展



©阿田 康太

主催：文京アートプロジェクト、文京区
助成：文京区社会福祉協議会日チャレ(国庫公費等助成事業)

2022.11.2 wed - 5 sat

文京シビックセンター1階
Gallery Civic



Bunkyo Brut

つながりのはじまり展



©リアン文京

主催：文京アートプロジェクト、文京区
協賛：文京区社会福祉協議会、日チャレ（東京都社会福祉事業団）

2022.11.2 wed - 5 sat

文京シビックセンター1階
Gallery Civic

Bunkyo Brut

つながりのはじまり展



©美術家

主催：文京アートプロジェクト、文京区

協成：文京区社会福祉協議会、日チャレ（関係公募協賛事業）

2022.11.2 wed - 5 sat

文京ツビックセンター1階
Gallery Civic

Bunkyo Brut

つながりのはじまり展



©運動の星

主催：文京アートプロジェクト、文京区
助成：文京区社会福祉協議会日チャレ(東京都社会福祉事業)

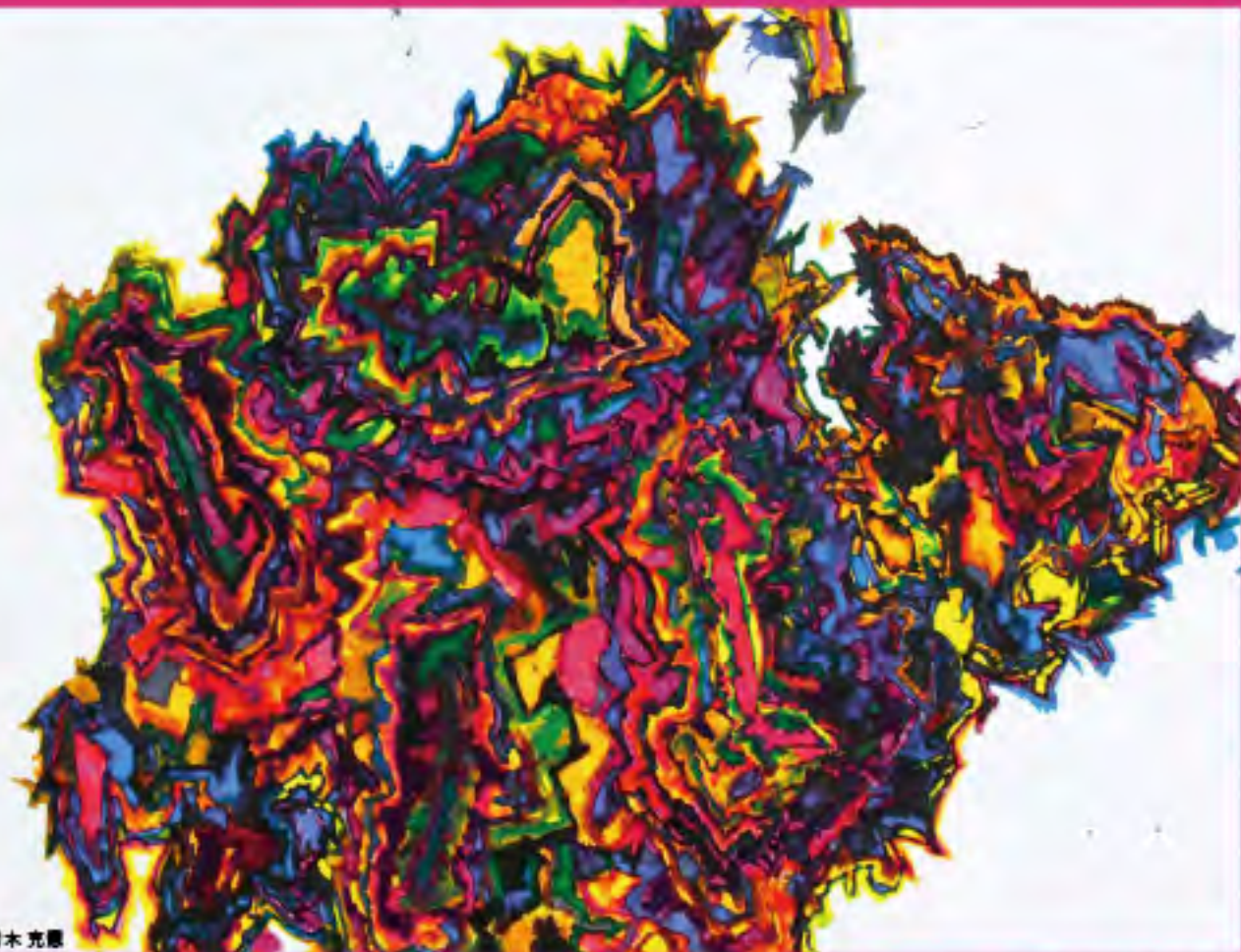
2022.11.2 wed - 5 sat

文京シビックセンター1階
Gallery Civic



Bunkyo Brut

つながりのはじまり展



©岩木 克豊

主催：文京アートプロジェクト、文京区
助成：文京区社会福祉協議会日チャレ（東京都社会福祉事業財団）

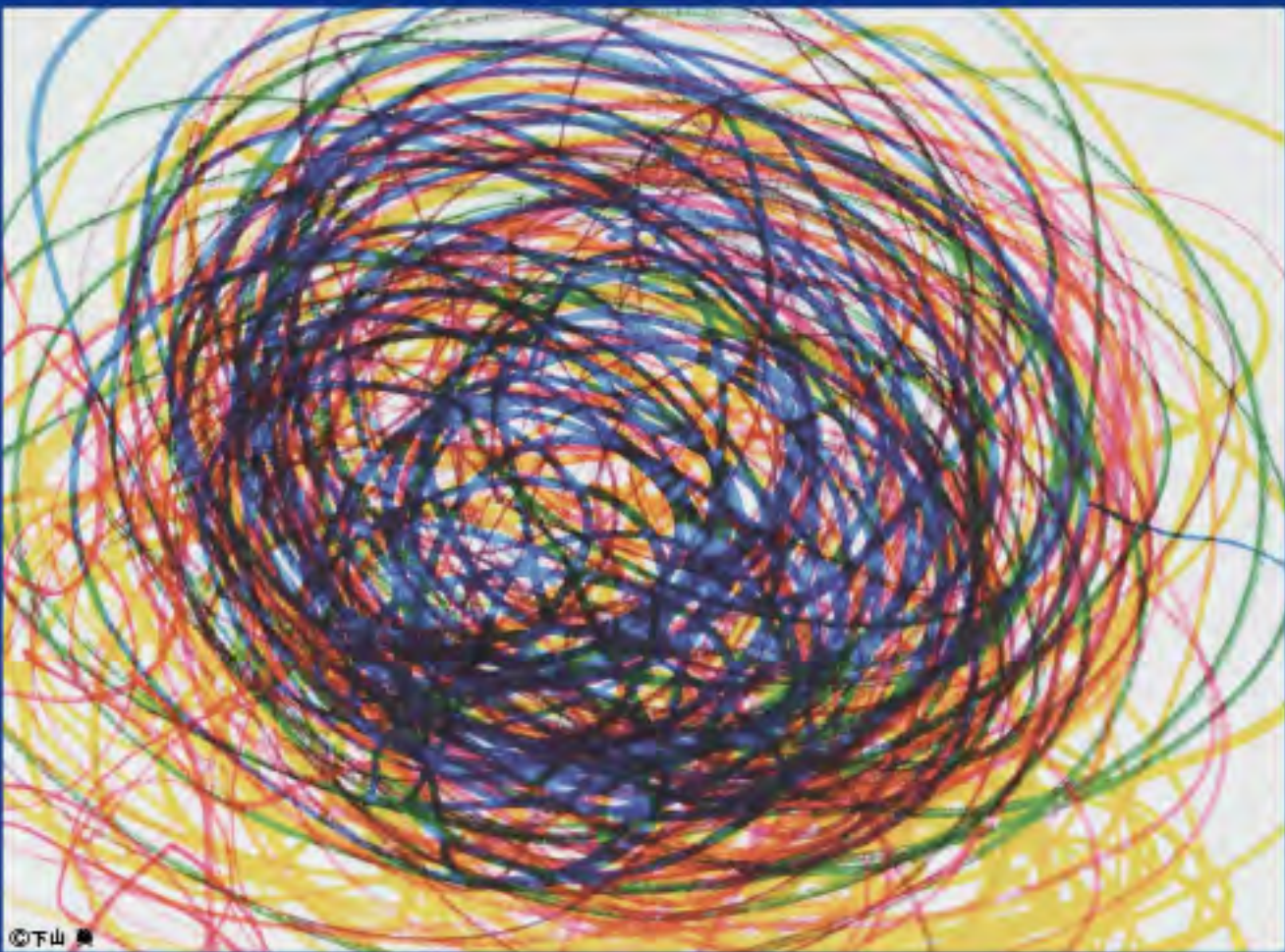
2022.11.2 wed - 5 sat

文京シビックセンター1階
Gallery Civic



Bunkyo Brut

つながりのはじまり展



©下山 典

主催：文京アートプロジェクト、文京区

助成：文京区社会福祉協議会日チャレ(東京都福祉振興局)

2022.11.2 wed - 5 sat

文京シビックセンター1階
Gallery Civic

Bunkyo Brut

つながりのはじまり展



©名坂 友和

主催：文京アートプロジェクト、文京区
助成：文京区社会福祉協議会Bチャレ(国庫公費助成事業)

2022.11.2 wed - 5 sat

文京シビックセンター1階
Gallery Civic

